

肉用種雄牛の検定 基幹種雄牛の選定「繁奥」

畜産試験場

1 取り上げた理由

優れた宮城県産の肉用牛種雄牛を造成し改良を促進するため、肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定を実施した。その結果、宮城県肉用牛改良委員会で「繁奥」が宮城県基幹種雄牛として認定され、平成14年4月から供用されたので、その特性と交配指針を普及技術とする。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛 繁奥

2) 特性等

- a 産地 桃生郡桃生町
- b 生年月日 平成8年4月4日

c 血統

父 母	祖父母	曾祖父
奥茂	茂重波	茂金波
	おくむね	第3福德
しげゆき	茂糸波	茂重波
	たまひめ	賢晴

- d 特性 優点： 資質, 中軀
欠点： 肘後

e 和牛産肉能力間接検定成績

1日平均増体重	0.88 kg
枝肉重量	316 kg
ロース芯面積	48 cm ²
脂肪交雑	3.1

f 産肉能力の期待育種価ランク

枝肉重量	B	皮下脂肪厚	C
ロース芯面積	A	歩留	A
バラ厚	A	脂肪交雑	A

平成13年2月分析 宮城県和牛育種価報告より算出
期待育種価は父母の育種価の平均値

ランクは県全体の上位1/4以上(A), 平均以上(B), 平均未満(C)

3 利活用の留意点

- 1) 繁奥産子の調査では、資質、体深に優れていたが、後軀特に外腿、尻の充実にかけるものが見られた。資質、体深の改良を目標にし、後軀に欠点の少ない繁殖牛への交配が望ましい。
- 2) 産子の肥育枝肉成績では、肉質（脂肪交雑、ロース芯面積等）に優れ、枝肉重量がやや不足し、皮下脂肪が厚かった。重量、皮下脂肪厚に優れた遺伝能力の繁殖牛を選択することが望ましい。
- 3) 予想産子の近交係数は10%以下となる交配が好ましい。奥茂、茂重波、茂糸波、茂勝の娘牛への交配は避けるべきである。
- 4) 繁奥の凍結精液は平成14年4月から配布。

(問い合わせ先：畜産試験場酪農肉牛部 電話 0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び期間

肉用種雄牛の検定 平成10～12年

2) 参考データ

a 和牛産肉能力直接検定成績

1日平均	365日	TDN	粗飼料
増体重(kg)	補正体重(kg)	要求率	摂取率(%)
1.29	416.0kg	4.01	32

b 和牛産肉能力間接検定成績

調査	終了時	1日平均	枝肉	ロース芯	推定	脂肪
頭数	体重(kg)	増体重(kg)	重量(kg)	面積(cm ²)	歩留(%)	交雑(BMS)
9	568	0.88	316	48	74.3	3.1

c 繁奥交配による予想産子の近交係数

交配予定 雌牛の父	予想産子の 近交係数
奥茂	16.5%以上
茂重波	13.6%以上
茂系波	11.5%以上
茂勝	10.2%以上
第2波茂	6.8%以上
秋重	6.8%以上
宮福茂	6.8%以上
茂系桜	5.5%以上
安谷	1.9%以上
宮滝	0.0%以上

3) 発表論文等

なし